

注意点1

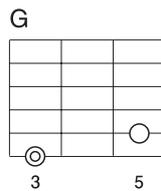
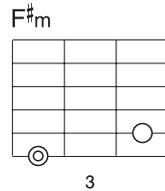
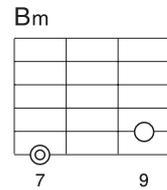
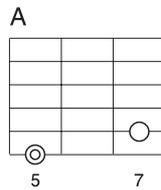
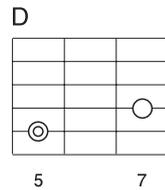


コード・ネームとともに
押さえ方を覚えるべし!

この曲は8小節単位のコード進行をくり返す構成になっているので、まずは使用する5つのパワー・コードのポジションを覚えておくとよい(図1)。演奏する時にはTAB譜の数字だけを見るのではなく、コード・ネームも確認していくと、ほかの曲でもコードを滑らかにチェンジしていけるようになるだろう。

図1 使用コードのダイアグラム

◎ ルート音



注意点2

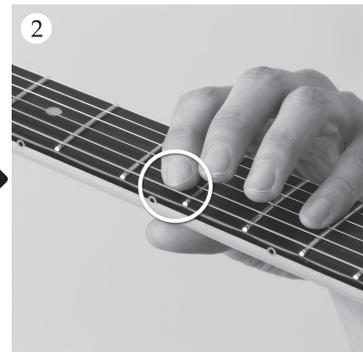


ノイズ対策は大丈夫か?
人差指でミュートをせよ

B5～6小節目では、弦移動中にコード・フォームが乱れないように注意しよう(写真①&②)。また、6小節目のDコードは、誤って6弦開放を鳴らしてしまうことがあるので、5弦5フレットを押さえている人差指の先端を使って6弦の余計な振動を抑えることが大切だ。慣れるまで、この部分をくり返し練習してみよう。



① B5小節目。6弦3fを人差指、5弦5fを小指でしっかり押さえよう。



② B6小節目。5弦5f & 4弦7fにスムーズに移動しよう。人差指の先端を使って、6弦をミュートすることも大切。

～コラム6～

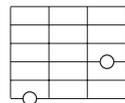
地獄の戯れ言

ここでは、パワー・コードのバリエーションとしてオクターブ奏法を紹介しよう(図2)。オクターブ奏法は、ルートとその1オクターブ上のルートを同時に鳴らすことによって、厚みのあるサウンドが生み出せるテクニックだ。2音の間の弦をしっかりとミュートすることが重要なポイントになるので、低音弦のルートを押さえている人差指を寝かせて、余計な振動を抑えるようにしよう。

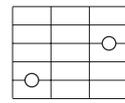
厚みのあるサウンドが出せる必殺技!
オクターブ奏法を修得しよう

図2 オクターブ奏法

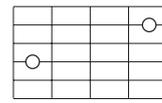
・6弦&4弦



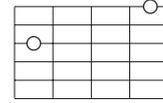
・5弦&3弦



・4弦&2弦



・3弦&1弦



“6弦&4弦” “5弦&3弦” と “4弦&2弦” “3弦&1弦” では、1オクターブ上のルートのポジションが異なるので注意しよう。

【コード進行】複数のコードを繋げて、ハーモニーの流れを作り出すこと。クリエイターを目指す人は、この“カノン進行”のような数多くの曲で使用されている“王道パターン”を覚えることが大切。